

## いざ！というときのために (故障の予防と緊急時処理法)

お出かけ前の点検	138
点検のしかた	140
1 ブレーキ液、クラッチ液の量	141
2 エンジン・オイルの量	142
3 オートマチック・トランスミッション・オイルの量	142
4 ウォッシャー液の量	143
5 冷却水の量	143
6 Vベルトの張り具合	144
7 排気温警告灯の作動	145
8 ハンドルの遊び、ガタ	145
9 ブレーキ・ペダルの遊び、踏み残り代	145
10 駐車ブレーキの引き代、踏み代、効き具合	146
11 ランプ類の点検	146
12 タイヤの空気圧	147
13 タイヤのみぞの深さ	148
14 排気ガスの色	148
工具とジャッキ	149
格納場所	149
工具	149
ジャッキ	150

パンクの処置	151
スペア・タイヤ	151
タイヤ交換	152
タイヤ・チェーンの装着	156
万一のときの処置	158
故障したら	158
夜間、休日の修理連絡先	158
走行中、エンジンが停止したときは	159
走行中、車体床下に強い衝撃を受けたときは	159
エンストして始動できなくなったときは	159
保安炎筒の使い方	160
故障したときの応急処置	161
バッテリーあがりの処置	161
オーバー・ヒートの処置	162
けん引のしかた	162
ヒューズについて	163
ヒューズ・ボックス	163
ヒューズの交換	164
サーキット・ブレーカー	165
電球について	168



# お出かけ前 の点検

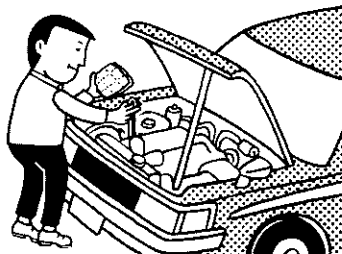
★法令により実施するよう義務づけられています。

★高速道路などで燃料、冷却水、オイル量の点検が不十分で走行できなくなると違反になります。

1. ●印の項目は毎日点検してください。
2. ☆印は、高速走行(80km/h以上)の可能な道路を走行する予定のある場合に追加される点検項目です。
3. ▶印のついている項目は点検要領を140ページ以降の「点検のしかた」に説明してあります。

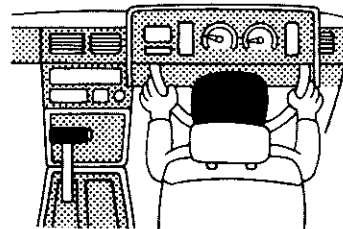
## ■点検順序

1. 前日の異常箇所を点検
2. ボンネットをあけて



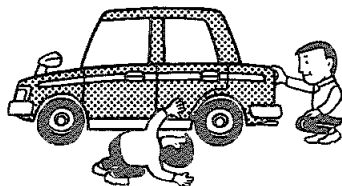
- ブレーキ液、クラッチ液の量 ▶1
- ☆エンジン・オイル量 ▶2
- ☆オートマチック・トランスミッション・オイル量 ▶3
- ウォッシャー液の量 ▶4
- ☆冷却水の量 ▶5
- ☆Vベルトの張り具合、損傷 ▶6
- ☆ラジエーター・キャップの取り付け状態

3. 運転席にすわりエンジンを始動して



- 燃料計の作動  
☆燃料は十分か
- 電圧計、油圧計の作動または油圧、充電警告灯の作動
- 排気温警告灯の作動 ▶7
- 方向指示灯表示灯の点滅具合
- ワイパーの作動、警音器の作動
- ウォッシャー液の噴射具合
- ガラス曇り止め装置の作動
- フェンダー・ミラー、ルーム・ミラーの映り具合
- ハンドルの遊び、ゆるみおよびガタ ▶8

#### 4. 車を外から見て



- ブレーキ・ペダルの遊び，  
踏み残り代 ▶ 9
- 駐車ブレーキの引き代，踏み代，  
効き具合 ▶ 10
- ドア施錠装置の具合
- シート・ベルトの損傷，取り付け  
状態

- ランプ類の点灯およびよごれ，  
損傷 ▶ 11
- ナンバー・プレートのよごれ，  
損傷
- タイヤの空気圧，き裂，  
損傷および異常摩耗 ▶ 12
- タイヤのみぞの深さ ▶ 13
- ☆ タイヤに金属片，異物がないこと
- 車が傾いていないこと
- 冷却水，オイル漏れ点検
- 排気ガスの色 ▶ 14
- 反射器のよごれ，損傷

#### 5. 徐行しながら



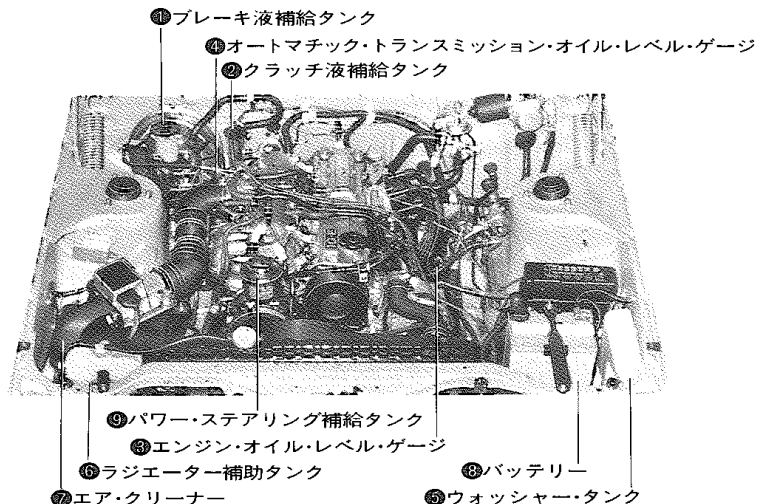
- 水温計，速度計の作動
- ハンドルの重さ，振れ，取られ
- ブレーキの効き，片効き

# 点検のしかた

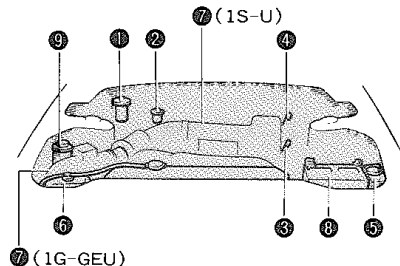
★ 注意

1. エンジン回転中は危険ですので次の部分には触れないでください。
  - 回転部分（ベルト、ファンなど）
  - 高温部分（排気管、ラジエーターなど）
  - 電気系統（プラグ・コードなど）
2. 紙や布など、燃えやすいものはエンジン・ルーム内に置き忘れないようにしてください。
3. ホース配管、配線ははずさないでください。
4. 車体端部などで手にケガをしないように注意してください。

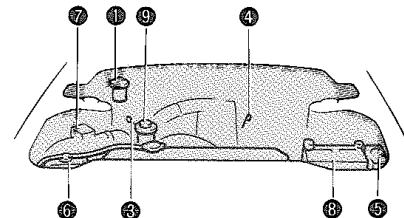
<1G-EU, 13T-J> ※写真は1G-EUエンジンとう載車です。



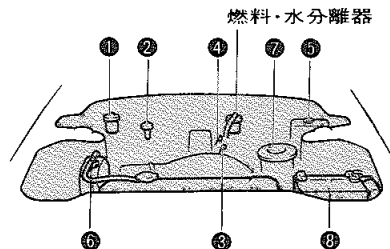
<1G-GEU, 1S-U>



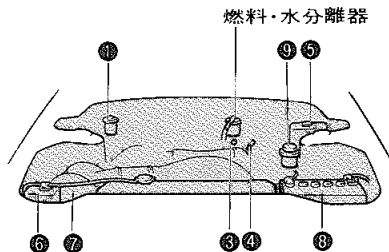
<M-TEU>



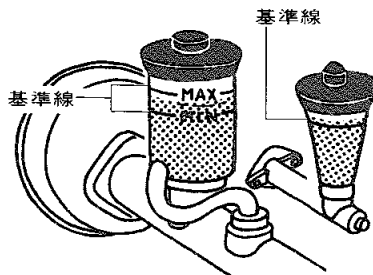
<L>



<2 L - T E>



## ① ブレーキ液, クラッチ液の量



### ▶ ブレーキ液

1. 補給タンクのMAX(上限)とMIN(下限)の基準線の間に液があるかを調べます。
2. 液の少ないときはトヨタ純正ブレーキ・フルード2400Gを補給します。

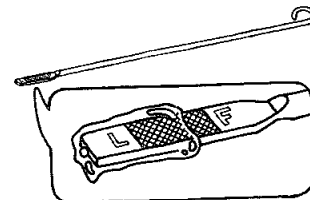


液の減りが著しいときは、ブレーキ系統に漏れがある場合があります。早目に点検を受けてください。

### ▶ クラッチ液

補給タンクの上方の基準線まで、液があるかを調べます。

## ② エンジン・オイルの量



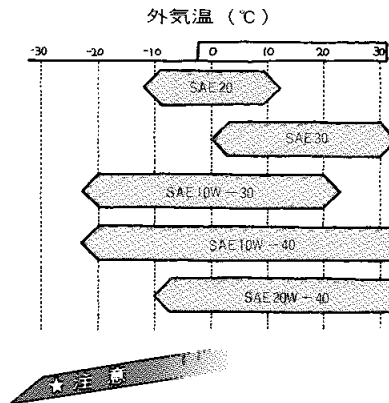
1. 車を水平な場所に止めます。車が傾いていると正確な量を示さないことがあります。
2. オイル量はエンジン始動前か、エンジンを止めてから少なくとも5分ぐらいたってから点検してください。オイルがエンジン各部に残っていると、正確なオイル量が測れません。
3. オイル・レベル・ゲージをきれいにふき、再びもどしてFとLの間にオイルがあるかを調べます。L以下の場合はFまで補給してください。FとLの間は約1ℓです。こぼれたオイルは確実にふき取ってください。

4. 補給オイルは、トヨタ純正キャッスル製品もしくは、下表のオイルを使用してください。

車 種		API基準
ガソリン車	ターボ車を除く	SF, SE, SD相当
	ターボ車	SF, SE, SD相当 (注1)
ディーゼル車	ターボ車を除く	CD, CC相当
	ターボ車	CD, CC相当(注1)

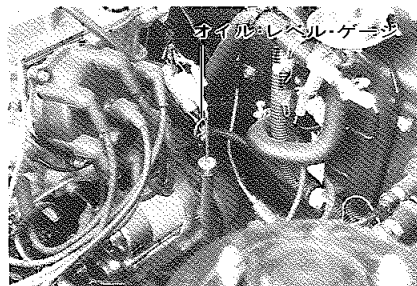
(注1) SAE粘度分類10W-30以上のものを使用してください。詳細は134ページのターボ車のエンジン・オイルについてを参照してください。

5. オイルは外気温に応じて使い分けてください。



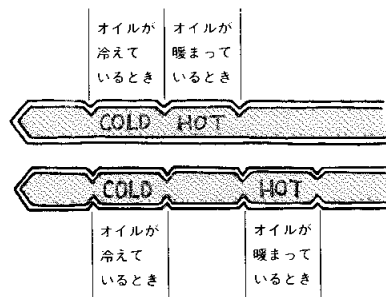
F以上にオイルを補給するとエンジン不具合の原因になることがあります。

### ⑩ オートマチック・トランスミッション・オイルの量



1. 車を水平な場所に置き、駐車ブレーキをかけます。
- ★点検が済むまでエンジンをかけておいてください。
2. フット・ブレーキを踏み、チェンジ・レバーを④～⑥まで動かした後⑥にします。
3. オイル・レベル・ゲージをきれいにふき、再びもどしてから点検します。
4. オイルが冷えているとき(約25°C)は、COLDの範囲内にあるかを調べます。オイルが暖まっているとき(約75°C、10分以上走行後の温度に相当)は、HOTの範囲内にあ

るかを調べます。



5. オイルが不足したまま走行すると油圧が下がり走行不能になるおそれがあります。トヨタ純正キャッスル・オート・フルード・スペシャルをオイル・レベル・ゲージそう人孔より規定量まで補給してください。

★注意

1. 補給は、必ず規定量にしてください。入れすぎるとオイル漏れになります。
2. 点検および補給後は、オイル・レベル・ゲージを確実に差し込んでください。

#### ④ ウォッシャー液の量

1. ウォッシャー液が十分はいつているかを調べます。

★タンク内がカラのままウォッシャー・スイッチを使用すると、モーターが破損することがあります。

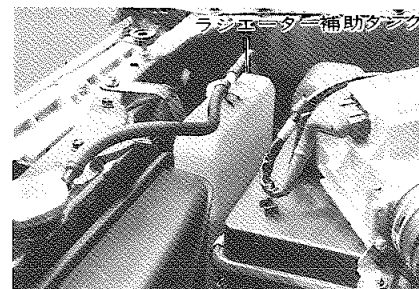
2. 不足しているときは、トヨタ純正ウインドウ・ウォッシャー・フルードを次表にしたがってご使用ください。

使用地域・季節	希釈割合	凍結温度
通常	原液1に水2	-10°C
寒冷地の冬期	原液1に水1	-20°C
極寒冷地の冬期	原液のまま	-50°C以下

★注意

ウォッシャー液のかわりに石けん水などを入れると塗装のしみなどの原因となることがあります。

#### ⑤ 冷却水の量



1. 冷却水の点検、補給は冷却水が冷えているときにラジエーター補助タンクで行なってください。ラジエーター内の冷却水が減ると、ラジエーター補助タンクから、自動的に補給される構造になっています。

★ラジエーター・キャップは冷却水の交換のとき以外はあけないでください。

2. 冷却水の量は常にLOWとFULLの間に保ち、FULL以上は入れないでください。LOW以下のときは、冷却システムの漏れなどを点検し補給してください。
3. 冷却水の補給は、キャッスル・ロ

ング・ライフ・クーラントの濃度を30%（寒冷地は50%）にしてご使用ください。

4. 通常は2年で交換してください。



ロング・ライフ・クーラントの濃度を薄めて使用すると防錆力が低下し錆などの不具合原因となることがあります。水だけの補給はしないでください。

### ⑥ Vベルトの張り具合

1. き裂やはがれがないかを調べます。
2. 図で示す位置を押えて、たわみ量を点検してください。

▶たわみ量

(単位：mm)

点検 エンジン	①ファン・ ベルト	②P.S. ベルト※	③エア・ コン・ ベルト※
1G-EU	14~21	17~24	10~13
1G-GEU	13~20	7~10	9.5~11
M-TEU	10~16	7~11	10~13
1S-U	13~20	8~12	6.5~7.5
13T-J	8~13		11~14
L	10~15	10~15	18~25
2L-TE	10~15	10~15	17~23

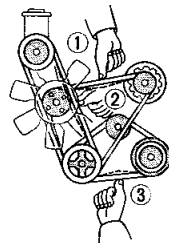
(ベルト中央部を10kgの力で押して)

※P.S.ベルトはパワー・ステアリング付き車のみ。

エア・コン・ベルトはエア・コンディショナー付き車のみ。

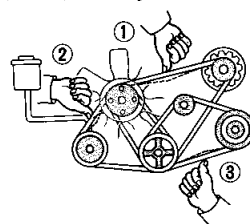
▶ベルトを押す位置

<1G-EU>

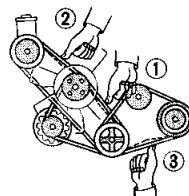


<1G-GEU>

ベルト調整時には、ベルトを各プーリの溝に確実に入れてください。



<M-TEU>

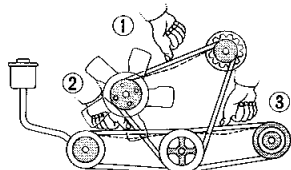


### ⑧排気温警告灯の作動

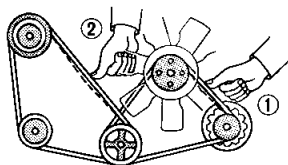
ディーゼル車を除く

<1 S-U>

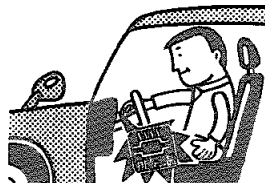
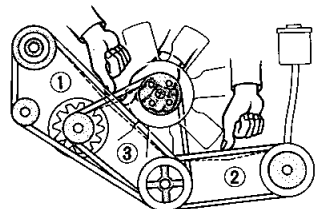
ベルト調整時には、ベルトを各プーリの溝に確実に入れてください。



<13 T-J>



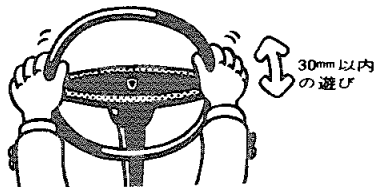
<L, 2 L-E>



エンジン・スイッチをONにするとランプが点灯し、始動すると消灯することを確認してください。

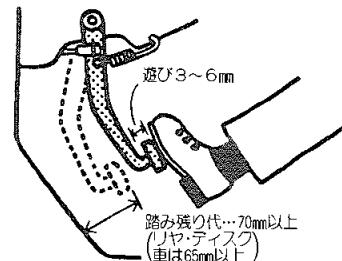
(16ページの「排気温警告灯」の項目を参照してください。)

### ⑨ハンドルの遊び、ガタ



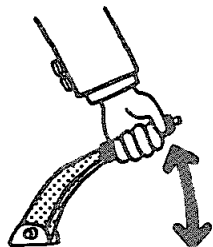
1. 遊びとは、ハンドルを回してもタイヤが動かない範囲をいいます。遊びはハンドル外周の動きで調べます。
2. ハンドルを上下、前後、左右に動かしてガタがないか調べます。

### ⑩ブレーキ・ペダルの遊び、踏み残り代



1. エンジンを停止した状態で、2～3回ペダルを踏み込んだのち遊びを点検します。
2. エンジンを始動し、ペダルを強く(約50kg)踏み込んで踏み残り代(ペダルと床とのすき間)を点検します。
3. ペダルを踏みつけたときに、ペダルがさらにはいり込むことがないことを確認してください。

## 10 駐車ブレーキの引き代，踏み代，効き具合



### ▶ 引き代

#### マニュアル・トランスミッション車

ブレーキ・レバーが止まる位置までゆっくり引いて(約20kgの力)，引き代が適当であるかを調べます。山とは，レバーを引くときのカチカチ音，“カチ”と1回音がすれば1山です。

5～8山

### ▶ 踏み代

#### オートマチック・トランスミッション車

駐車ブレーキ・ペダルを止まる位置までゆっくり踏んで(約30kgの力)，踏み代が適当であるかを調べます。山とは，ペダルを踏んだときのカチカチ音，“カチ”と1回音がすれば1山です。

2～5山

### ▶ 効き具合

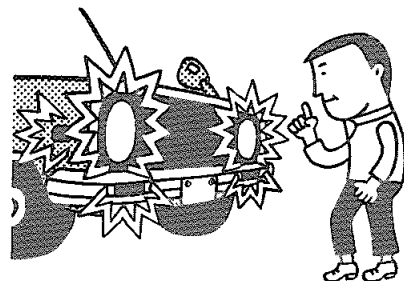
#### マニュアル・トランスミッション車

1. エンジンを始動し，ブレーキ・レバーをいっぱい引いた状態でチェンジ・レバーをロー(1速)に入れます。
  2. アクセル・ペダルから足をはなし，クラッチをゆっくりつなぎます。
- ★安全のため，いつでもブレーキ・ペダルを踏めるようにしてください。
3. このとき，エンジンが止まるか，または車両が前進しないことを確認します。

#### オートマチック・トランスミッション車

1. エンジンを始動し，駐車ブレーキ・ペダルをいっぱい踏みます。
2. フット・ブレーキを踏みチェンジ・レバーを⑤に入れます。
3. フット・ブレーキから足をはなしたとき，車両が前進しないことを確認します。

## 11 ランプ類の点検



次のランプが点灯するかを点検し，よごれや傷がないか調べます。

前照灯

非常点滅灯

駐車灯

車幅灯

制動灯

尾灯

番号灯

計器照明灯

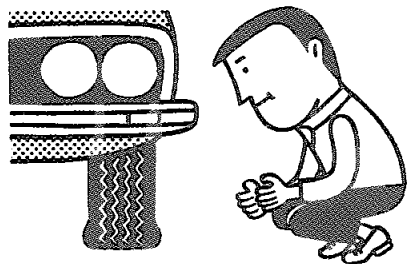
室内灯

エンジン・スイッチをONにして

方向指示灯

後退灯

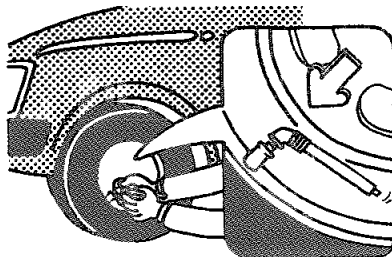
## 12 タイヤの空気圧



走行前のタイヤが冷えているときにタイヤ空気圧計を使用してください。

### ▶ タイヤ空気圧計の使い方

1. バルブ・キャップをはずし、空気が漏れないようにタイヤ空気圧計をバルブに強く押しつけてください。
  2. 目盛板がとび出した後、タイヤ空気圧計をバルブからはなして目盛りを読みます。
  3. 測定後、空気が漏れないことを確かめキャップをはめます。
- ★走行後は標準空気圧より高いのが普通です。減らさないでください。  
★スペア・タイヤの空気圧も調べてください。



### ▶ タイヤ指定サイズ・空気圧

セダン/ハードトップ/ワゴン

グレード	タイヤ・サイズ	空気圧 kg/cm <sup>2</sup>	
		前輪	後輪
STD, DX, GL	6.45-14-4PR	1.8(2.1)	
DX(*1), GL(*2), GR, LE, LG	175SR14	1.7(2.0)	
LGツーリング, グランデ	185/70SR14		
グランデ(1G-GEU車)(*2)	195/70HR14		
	応急用タイヤ	4.2	

(\*1) 注文装備(ディーゼル車のみ) (\*2) 注文装備 ( )内は高速時

バン

グレード	タイヤ・サイズ	積荷状態	空気圧 kg/cm <sup>2</sup>	
			前輪	後輪
STD, DX GL	6.95-14-6PRLT	空荷	1.8(2.1)	
		積荷	1.8(2.1)	2.8(3.0)
DX(*2), GL(*2)	175R14-6PRLT	空荷	1.8(2.1)	
		積荷	1.8(2.1)	2.8(3.0)

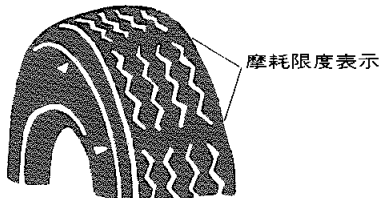
タイヤの標準空気圧表は、運転席ドア後部にも張ってあります。



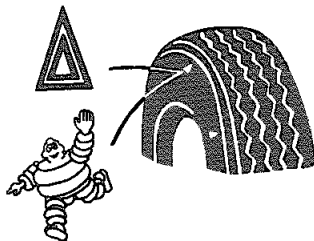
1. チューブレス・タイヤの場合、空気圧が極端に少なかったり、リムが変形したときなどは、タイヤとリムの密着が悪くなり空気が漏れるので特に注意してください。
2. 空気圧が低いままで走行すると、急ハンドル時タイヤがリムからはずれ事故を起こすおそれがあります。

### 13 タイヤのみぞの深さ

1. 摩耗限度表示(みぞの深さが1.6mm になったら現われます)が現われたら、タイヤを取り替えてください。



▶ 下図のマーク位置に摩耗限度表示が  
 あります。  
 (除くミシュラン製タイヤ)



(ミシュラン製タイヤ)

2. また、バンについては高速走行時(80km/h以上)の場合は、安全のためみぞの深さは2.4mm以上を厳守してください。

### 14 排気ガスの色

無色または薄青色…正常  
 黒色……………混合気が濃すぎる  
 ための不完全燃焼  
 です。



白色……………エンジン・オイル  
 が燃えている場合  
 があります。ただ  
 し、気温の低い場  
 合は水蒸気で白く  
 見えることもあり  
 ます。

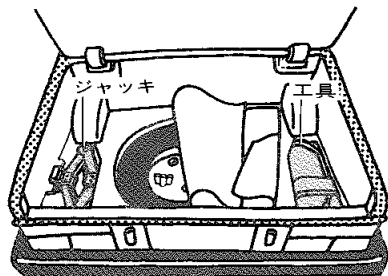


なお、ディーゼル車の排気ガスは薄い  
 白色か、やや黒ずんだ色の場合も正常  
 です。

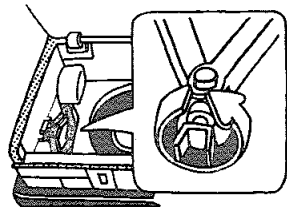
# 工具と ジャッキ

## ■格納場所

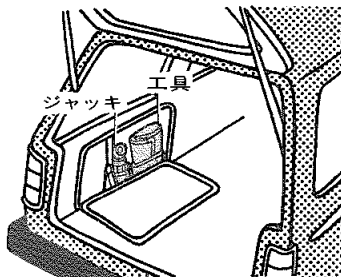
セダン/ハードトップ



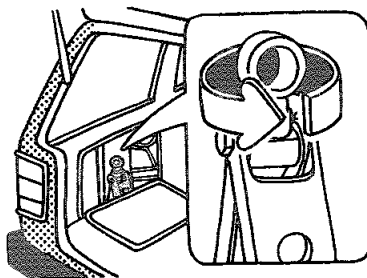
1. トランク左右のカバーの下に格納されています。
2. ジャッキは下図のようにすると取り出せます。



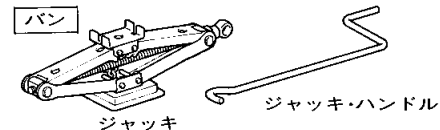
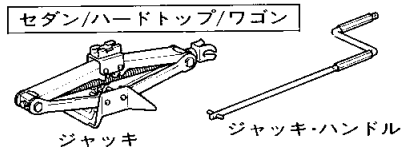
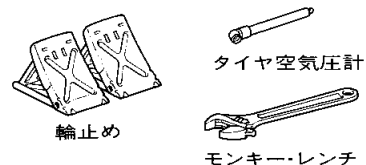
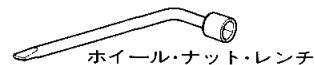
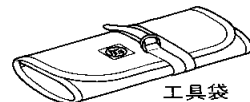
ワゴン/バン



1. 荷室左側のカバー内に格納されています。
2. ジャッキは下図のようにすると取り出せます。



## ■工具

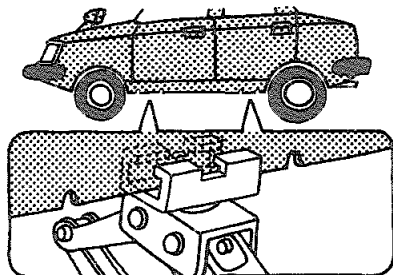


### ■ジャッキ

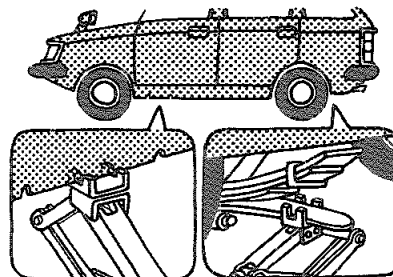
タイヤ交換およびタイヤ・チェーンを装着するときに使用します。

#### ▶ジャッキをセットする位置

セダン/ハードトップ/ワゴン

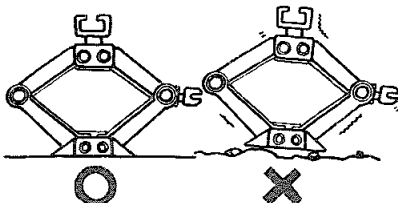


バン



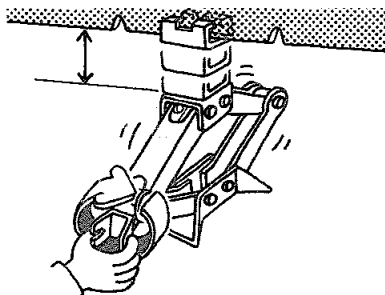
#### ▶ジャッキのかけかた

1. ジャッキを地面の平らな固くて安定できるところにセットします。

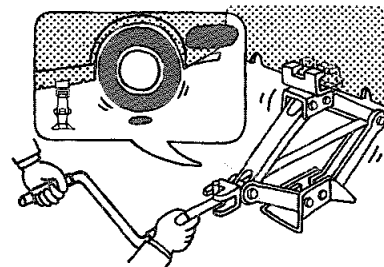


★人や荷物を車からおろしてください。

2. ジャッキを手で回して、ジャッキ・セット位置まで上げます。



3. ジャッキが確実にジャッキ・セット位置にかかっていることを確認し、ジャッキ・ハンドルを使用して、タイヤが地面から少しはなれるまでジャッキ・アップします。



★注意

ジャッキ・アップしたら車の下には絶対もぐらないでください。万一、ジャッキがはずれると大変危険です。

# パンクの処置

★作業をするとき車体端部などでケガをしないように注意してください。

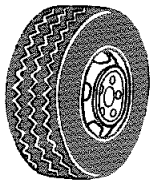
★パンクした場合に、エアゾール製品の補修剤を使用したときは、早目にパンク修理してください。

## ■スペア・タイヤ

### ▶ 応急用タイヤ

セダン/ハードトップ

標準タイヤ



応急用タイヤ



タイヤがパンクしたとき、一時的に使用するタイヤです。

★この応急用タイヤは標準タイヤより空気圧が高く、また直径がやや小さくできています。したがって、この応急用タイヤをご使用される場合は次の注意事項をお守りください。

- 応急用タイヤの空気圧はときどき点検してください。

空気圧：4.2kg/cm<sup>2</sup>（冷間時）

- 応急用タイヤを装着した場合は、100km/h以下で走行し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。

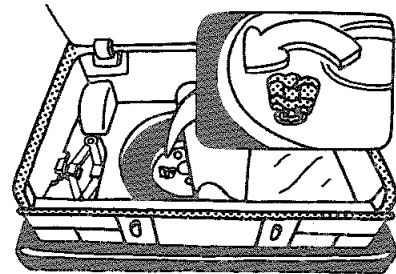
- 応急用タイヤを装着した場合、タイヤの直径が小さいため、車高が少し低くなりますので、突起物などを乗り越えるとき標準タイヤ装着時と同じ感覚で運転しないよう注意してください。

- この応急用タイヤとホイールはすべてマークⅡの専用品です。他のタイヤやホイールと組み合わせたりマークⅡ以外の車に使用しないでください。

- 応急用タイヤにタイヤ・チェーンを装着しないでください。後輪がパンクした場合は前輪と交換してタイヤ・チェーンを装着してください。

### ▶ 格納場所

セダン/ハードトップ

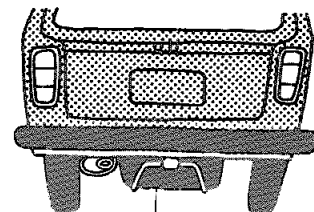


トランクに格納してあります。

1. 蝶ネジを左に回して取り出します。

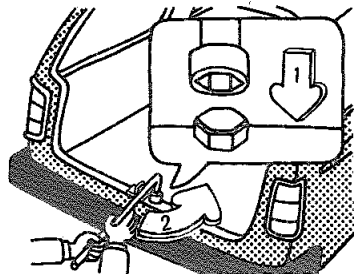
ワゴン/バン

荷台床下部に格納してあります。

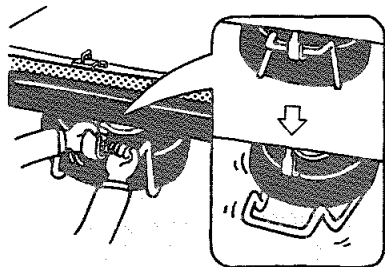


スペア・タイヤ

1. ホイール・ナット・レンチで床下のボルトを十分ゆるめます。



2. スペア・タイヤ格納具を少し持ち上げて、フックからはずします。

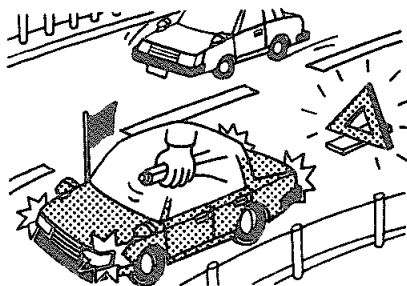


3. 格納具を足の上などに落とさないように注意して、地面におろし、スペア・タイヤを取り出します。

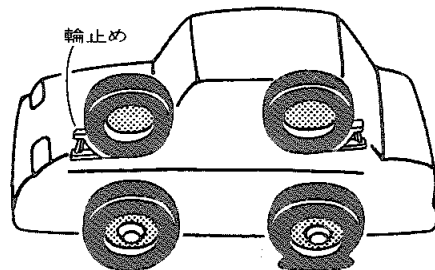
### ■タイヤ交換

#### ▶準備

1. 交通のじゃまにならず、安全に作業ができる平らな場所に車を止めます。
2. 非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板を使用します。
3. 駐車ブレーキをかけます。

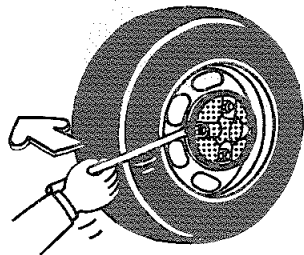


4. 工具、ジャッキを取り出します。
5. 左側バンク時には左側前後のタイヤ、右側バンク時には右側前後のタイヤに輪止め（とう載工具に含まれています）をします。



6. スペア・タイヤを取り出します。（151ページの「スペア・タイヤ」の項目を参照してください。）

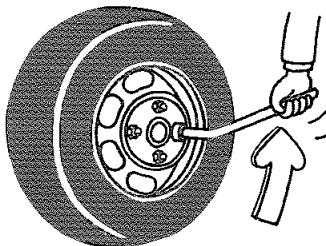
7. ホイール・キャップ、センター・キャップなどを取りはずします。ホイール・ナット・レンチの柄の先を使うと楽にはずれます。直接手をかけて取ると指をケガすることがありますので注意してください。



- (※1) 樹脂ホイール・キャップ付き車は154ページを参照してください。  
 (※2) アルミ・ホイール装着車は155ページを参照してください。

▶ ジャッキ・アップ

1. ジャッキをセットします。  
 (150ページの「ジャッキ」の項目を参照してください。)
2. ホイール・ナット・レンチでナットを左に回し、手で回るくらいまでゆるめます。



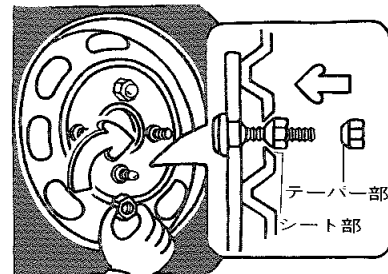
3. 車をタイヤと地面とが、少しはなれるまでジャッキ・アップします。



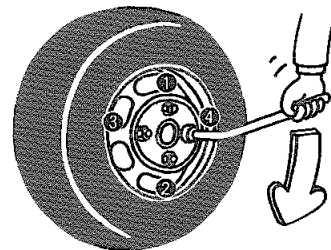
万一、ジャッキがはずれると大変危険です。ジャッキ・アップしたら車の下には絶対もぐらないでください。

▶ タイヤ交換

1. ナットをはずし、タイヤを取り替えます。
2. ナットのテーパー部がホイール穴のシート部に軽く当たり、タイヤがガタつかない程度までナットを右に回して仮り締めします。



3. ジャッキを下げて図の順序で2～3度にわたり、レンチを使用して手で十分締め付けます。



★注意

レンチを足で踏んだり、パイプなどを使用して必要以上に締め付けないでください。

4. ホイール・キャップやセンター・キャップなどを取り付けます。  
タイヤのバルブ（空気口）に、ホイール・キャップの穴を合わせてください。

5. 取り付けしたタイヤの空気圧を調整します。  
（147ページの「タイヤの空気圧」を参照してください。）

★注意

1. やむをえず未調整のまま走行するときはひかえめな速度で走行してください。
2. 空気圧が低いまま走行を続けると、高速走行時タイヤが疲労しバースト（破裂）するおそれがあります。チューブレス・タイヤの場合はタイヤとリムの密着が悪くなり空気が漏れやすくなります。

6. 工具、ジャッキ、タイヤを片づけます。

タイヤを格納するときは確実に固定してください。

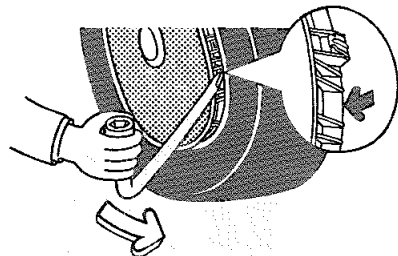
7. バンク時に限らず、タイヤを脱着したときは、タイヤを取り付けて、1000km走行後、再度ホイール・ナットを締め付け、ゆるみがないことを点検してください。

★注意

1. タイヤ交換後、走行中ハンドルや車体に振動が出た場合はタイヤのバランスの点検をトヨタ販売店で受けてください。
2. タイヤは、必ず指定サイズ（147ページのタイヤ指定サイズ・空気圧の表をご覧ください。）、同一種類のタイヤを装着してください。指定外のサイズ、異なった種類のタイヤを個々に使用することは車の安全走行に悪い影響をおよぼしますので、絶体にさけてください。

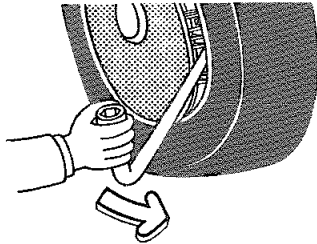
▶樹脂ホイール・キャップの取りはずしかた

1. ホイール・ナット・レンチの先端を差し込んで、すき間をつくりま



2. ホイール・ナット・レンチの先端を差し込んでホイールとキャップの間にホイール・ナット・レンチが十分はいるまでタイヤ側にこじってください。

3. ホイール・ナット・レンチを差し込みタイヤ側に強くこじれば、はずれます。

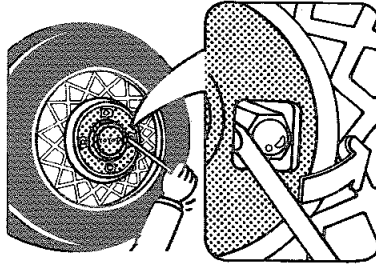


★直接手をかけて取ると指にケガをすることがあります。

★ホイール・ナット・レンチ以外は使用しないでください。

▶アルミ・ホイール装着車

〈センター・キャップの取りはずしかた〉



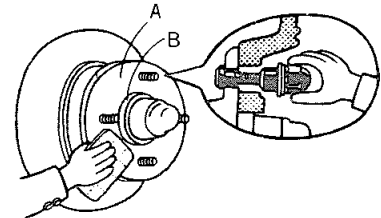
ホイール・ナット・レンチの柄の先をホイール・キャップの穴に差し込み、ホイール・ナットの頭部を支点にして矢印の方向にこじると楽にはずせます。

★直接手をかけて取ると指にケガをすることがあります。

★ホイール・ナット・レンチ以外は使用しないでください。

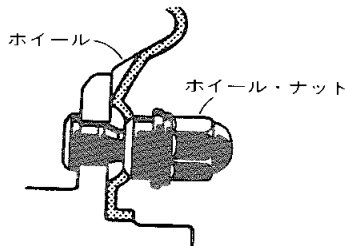
〈アルミ・ホイールの取り扱い〉

1. 取りはずしたホイールを直接地面に置くとホイール面を傷つけるおそれがあります。
2. バランス・ウエイトおよびナットはトヨタ純正のアルミ・ホイール専用品をお使いください。
3. 傷、変形のあるアルミ・ホイールは再使用しないでください。
4. アルミ・ホイールを再び車両に取り付けるとき図のA、B部のよごれをきれいにふいてからBの部分を実際にはめ、ホイール・ボルトが取り付け穴の中心にくるようにして、ホイール・ナットの座金がホイールに当たるまで手で締めてください。



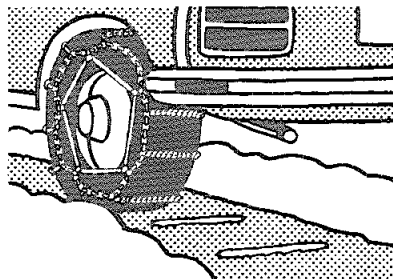
5. ホイール・ナットを締めすぎないように注意してください。
  6. ホイールに傷をつけるおそれがありますので、タイヤ・チェーンを装着しないでください。  
雪路走行の予定があるときはスチール・ホイールに付け替えてください。
- 取り付ける場合、ホイール・ナットは下図のように取り付けてください。

スチール・ホイール装着時



## タイヤ・チェーンの装着

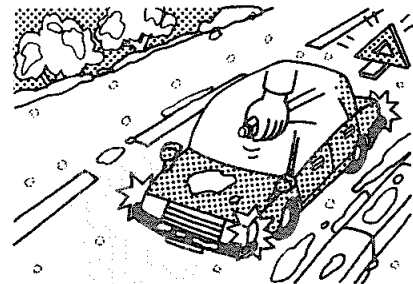
- ★タイヤ・チェーンは後2輪に取り付けます。
- ★作業をするとき車体端部などでケガをしないように注意してください。



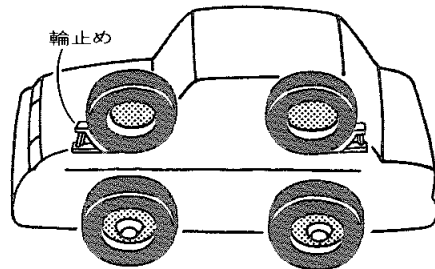
### ▶ 取り付け方

1. 交通のじゃまにならず、安全に作業ができる平らな場所に車を止めます。
2. 非常点滅灯を点滅させ、人や荷物をおろし、停止表示板を使用します。

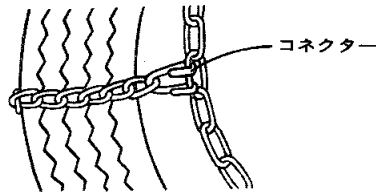
3. 駐車ブレーキをかけます。



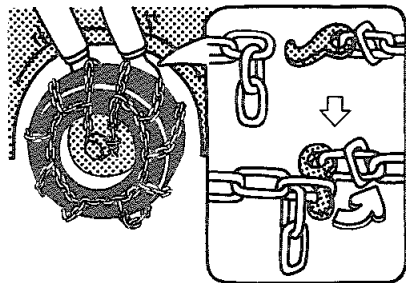
4. 工具、ジャッキを取り出します。
5. 左側チェーン取り付け時には右側前後のタイヤ、右側チェーン取り付け時には左側前後のタイヤに輪止め（とう載工具に含まれています）をします。



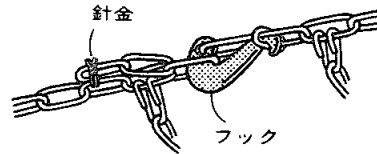
6. 後輪をジャッキ・アップします。  
(150ページの「ジャッキ」の項目を参照してください。)
7. コネクターの折り曲げを外にして  
タイヤを回しながらチェーンをかぶせます。



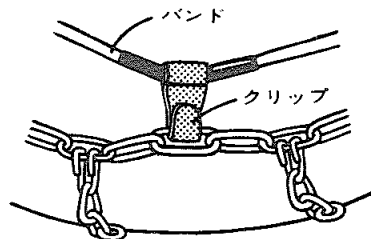
8. チェーンの両端をいっぱい引っ張って内側のフックを、次に外側を連結します。



9. 余ったチェーンは車体に当たるのを防止するために図のように針金で結びます。



10. チェーン・バンドはクリップの爪を外向きにし、チェーンにかけます。



11. ジャッキをおろし輪止めをはずします。
12. 2～3分走行後、チェーンのゆるみ、はずれなどが無いことを確認してください。

★走行中タイヤ・チェーンが切れたり、一部はずれたりした場合は、車体側に当たり悪影響をおよぼしますのでただちに処置してください。

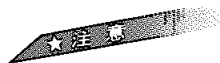
★ホイール・キャップ付き車の場合ホイール・キャップに傷がつくおそれがありますので、タイヤ・チェーンを装着する際には、ホイール・キャップをはずしてください。

★アルミ・ホイール装着車はホイールに傷をつけるおそれがありますので、タイヤ・チェーンを装着しないでください。雪路走行の予定があるときはスチール・ホイールに付け替えてください。

(155ページの「アルミ・ホイール装着車」の項目を参照してください。)

▶ 取りはずし方

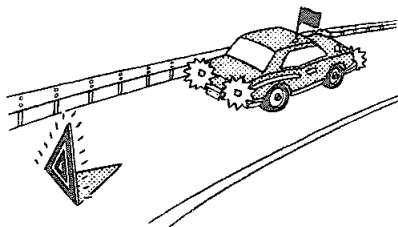
1. チェーン・バンドをはずし、針金を取り、フックは内側から先にはずします。
2. 車を少し動かし、チェーンを取り出します。



1. タイヤ・チェーンは、車のタイヤ・サイズに合ったものを使用してください。
2. タイヤ・チェーンを装着した場合は、次の速度で走行してください。雪路、凍結路30km/h以下
3. 乾燥路面でのタイヤ・チェーンの装着はチェーンの寿命を短くしますので、できるだけさけてください。
4. 前輪にはタイヤ・チェーンを装着することはできません。

## 万一のときの処置

■故障したら



1. 車を路肩に寄せ非常点滅灯を点滅させるか、赤旗などを表示します。
2. 高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板を置いてください。

法律で義務づけられています。

★非常電話を利用する場合などは、路肩を歩くよう心がけてください

■夜間、休日の修理連絡先

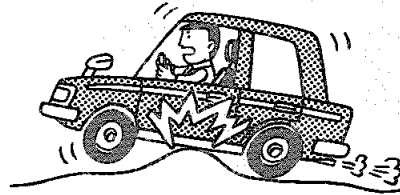
“整備手帳”巻末のトヨタ・サービス網をご覧ください。



■走行中、エンジンが停止したときは運転操作に変化が生じますので、次の方法で車を安全な場所に停止してください。

1. ブレーキ倍力装置（ペダル踏力軽減装置）付き車  
ブレーキ倍力装置が作用しなくなりますので、ブレーキ・ペダルを強く踏んでください。
2. パワー・ステアリング装置（ハンドル操作力軽減装置）付き車  
パワー装置が働かなくなりますので、ハンドル操作が重くなります。ハンドルを強く操作してください。

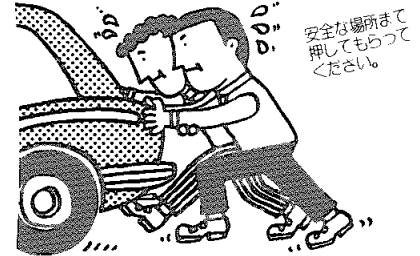
■走行中、車体床下に強い衝撃を受けたときは



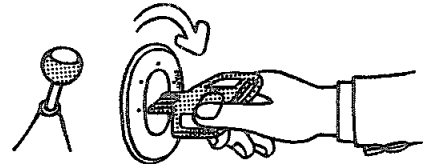
ただちに車を止め、ブレーキ液の漏れや損傷を確認してください。損傷がひどい場合はトヨタ・サービス工場での点検を受けてください。

■エンストして始動できなくなったときは

1. 付近に人がいる場合は安全な場所まで押してもらってください。



2. マニュアル・トランスミッション車はチェンジ・レバーの位置をセカンドまたはサードに入れクラッチを踏まずにエンジン・スイッチをSTARTの位置で保持すれば車を動かすことができます。



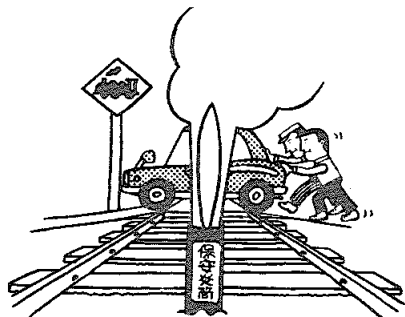
セカンドまたはサードに入れてスターターを回します。

また平たん路の場合はトップにすると早く抜け出せます。

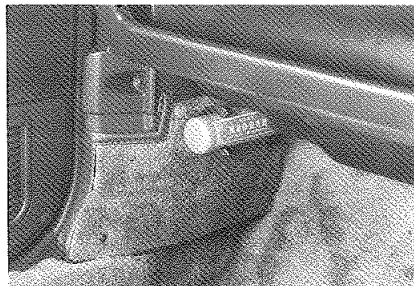
オートマチック・トランスミッション車はエンジン・スイッチで車を動かすことができません。

3. 踏切内で動かなくなり脱輪などすぐ動かさない場合は、ただちに踏切の非常ボタンを押してください。

★電車が来そうになったり緊急を要するときは保安炎筒で合図してください。



### ■保安炎筒の使い方



踏切内での故障など、非常時に使用します。

1. グローブ・ボックス左下部に備え付けてあります。
2. 発炎時間は約5分間です。  
使用方法は保安炎筒のラベルに表示されています。よく読んで万が一に備えてください。
3. 保安炎筒の有効期間は3年です。  
有効期間はラベルに表示してあります。有効期間のきれる前にトヨタ販売店でお求めのうえ、交換しておいてください。

### ★注意

1. お子様にはさわらせてないください。
2. 非常信号用としてのみご使用ください。
3. 使用中は筒先を顔や体に向けたり近づけたりしないでください。火傷の危険があります。
4. 発炎時間は約5分ですので、非常点滅灯を併用するようにしてください。

# 故障したとき の応急処置

## ■バッテリーあがりの処置

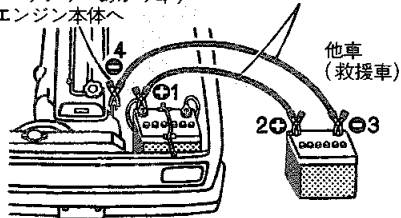
バッテリーあがりによりエンジン始動ができない場合、ブースター・ケーブルがあれば、他車のバッテリーを電源としてエンジンを始動することができます。

★救援車は必ず12Vのバッテリーが付いている車を使用してください。

1. ブースター・ケーブルを図の番号の順序に接続します。

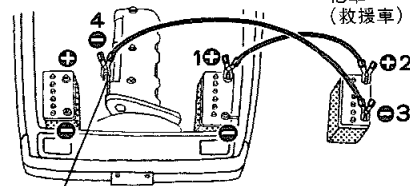
⊕⊖を間違えないでください。

自車  
(バッテリーあがり車) ブースター・ケーブル  
エンジン本体へ



## ディーゼル車でバッテリーが2個の場合

自車  
(バッテリーあがり車)



エンジン本体へ

★寒冷地向けのディーゼル車のバッテリーは2個ですが、24Vではありません。救援車は、必ず12V車を使用してください。

2. 接続後、他車のエンジンを始動させ回転数を少し高目にしておきます。

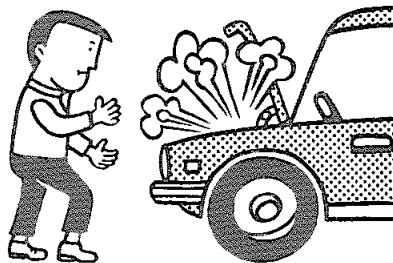
3. 自車のエンジンが始動したら、取り付けたときの逆の順序でブースター・ケーブルを取りはずします。バッテリーはすぐにガソリン・スタンドやトヨタ・サービス工場で完全充電してください。



1. 絶対に押しがけによる始動はやめてください。
2. ケーブル接続の際には、⊕と⊖端子を絶対に接触させないでください。
3. ケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないように接続には十分注意してください。

 = 故障したときの応急処置

## ■オーバー・ヒートの処置

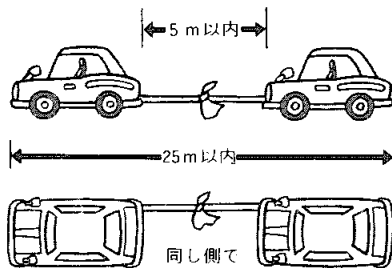


1. 安全な場所へ車を止めてください。
2. エンジンをかけたままで、ボンネットをあけ、風通しをよくします。
3. 水温計の針が下がってきたら、エンジンを止めます。
4. エンジンが十分に冷えてから、冷却水の有無、Vベルトのゆるみを点検します。



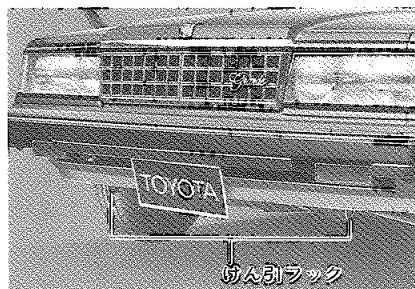
あわててラジエーター・キャップをはずすと、冷却水には圧力がかかっていますので、蒸気や熱湯が吹き出して思わぬ火傷をすることがあります。

## ■けん引のしかた



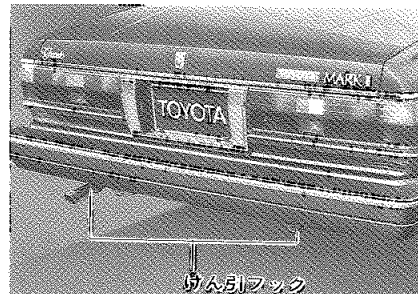
## ▶ロープをかける位置

<フロント側>



<リヤ側>

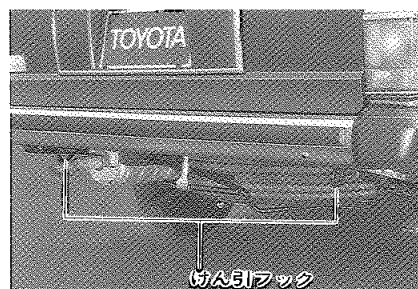
セダン／ハードトップ



ワゴン

右側のフックはセダン、左側のフックはバンと同じ位置にあります。

バン



けん引車は急発進、急停車をしないようにし、けん引される車はけん引車の

無断複製禁止

制動灯に注意し、常にロープをたるませないように気をつけてください。



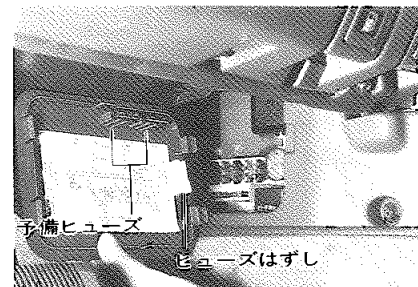
1. けん引される車は、下記事項を厳守してください。
  - チェンジ・レバーを④の位置にする。
  - エンジン・スイッチをACCまたはONにする。
  - けん引される速度は30km/h以内（オートマチック・トランスミッション車のみ）
  - けん引される距離は80km以内（オートマチック・トランスミッション車のみ）
2. エンジンが停止していると、いつもよりブレーキの効きが悪くなります。
3. パワー・ステアリング（ハンドル操作力軽減装置）付き車はハンドル操作が非常に重くなります。できる限りエンジンを始動してけん引してください。

4. 長坂路を下るときはブレーキが過熱し効かなくなるおそれがあります。レッカー車にけん引してもらってください。
5. 次の場合はトヨタ販売店にご連絡ください。
  - エンジンが回っているのに車が動かない、または異常な音をする。
  - オートマチック・トランスミッション・オイルがない。

# ヒューズ について

## ■ ヒューズ・ボックス

### ▶ 運転席足元ヒューズ・ボックス



### ▶ エンジン・ルーム内ヒューズ・ボックス



ヒューズ・ボックスは運転席足元と、エンジン・ルーム内にあります。運転席足元のヒューズ・ボックスの中には、ヒューズおよびサーキット・ブレーカーがあります。ヒューズおよびサーキット・ブレーカーの受け持っている装置は166、167ページの表を参照してください。

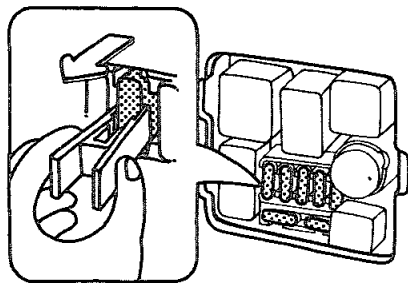
★エア・コンディショナー、シート・ヒーター、フォグ・ランプが作動しないときは、トヨタ・サービス工場へご連絡ください。

### ■ヒューズの交換

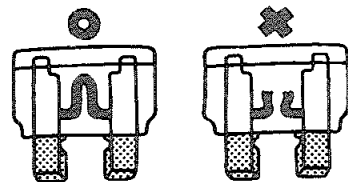
各ヒューズの受け持っている装置が作動しないときは、ヒューズ切れが考えられます。そのときは、次のように処置してください。

#### ▶ヒューズ切れ

1. エンジン・スイッチをLOCKの位置にします。
2. ヒューズにヒューズはずしを差し込んで引き抜いてください。  
(運転席足元ヒューズ・ボックスのカバーにヒューズはずしがついています。)



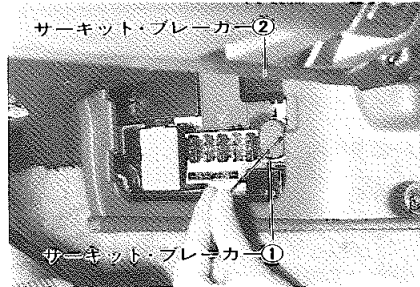
3. ヒューズが下図の右側のようなであれば、ヒューズ切れです。予備ヒューズと交換してください。



1. 取り付けであるヒューズと同じヒューズを使用してください。針金、銀紙などを使用すると電線の過熱・焼損の原因になります。
2. 取り替えてもまたヒューズが切れる場合は点検を受けてください。

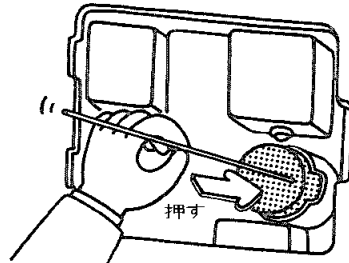
## ■サーキット・ブレーカー

(装置を保護するため、電流が流れすぎたとき、電流をしゃ断する装置)



▶サーキット・ブレーカー①の受け持つ回路の装備品(リヤ・ウインドウ・ガラス曇り取り装置)が作動しないとき

1. エンジン・スイッチを**LOCK**の位置にします。
2. サーマット・ブレーカーの穴に軽く針金をカチッという音のする位置まで差し込みます。

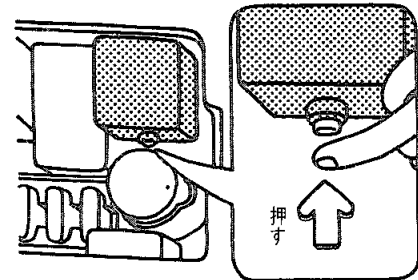


3. これでサーキット・ブレーカー①の回路が復帰します。

★マッチ棒など折れやすい物は使用しないでください。

▶サーキット・ブレーカー②の受け持つ回路の装備品(電動ウインドウ、電磁式ドア施錠装置、サン・ルーフ)が作動しないとき

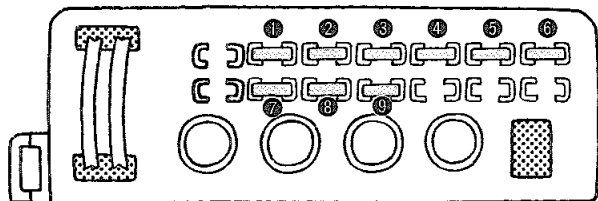
1. サーマット・ブレーカーのボタンを押します。



2. これでサーキット・ブレーカー②の回路が復帰します。

★以上の操作をしても、装備品が作動しないときや、サーキット・ブレーカーの回路が再び切れる場合は、すぐにトヨタ・サービス工場で点検を受けてください。

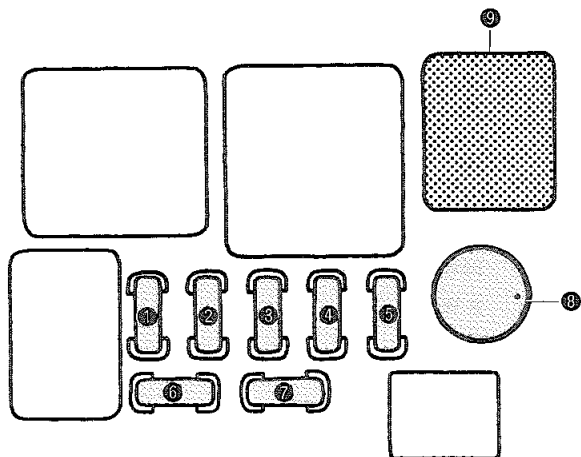
▶ エンジン・ルーム内ヒューズ・ボックス



〈ヒューズの受け持つ装置〉

①	チャージ	7.5A	電熱チョーク、排気コンピューター
②	エンジン	15A	ボルテージ・レギュレーター オルタネータ
③	ハザード、ホーン	15A	警音器、非常点滅灯
④	テール・ランプ	15A	尾灯、番号灯、車幅灯、計器照明、ラジオ照明、ヒーター照明、シガレット・ライター照明、グローブ・ボックス・ランプ、チェンジ・レバー位置表示、時計照明
⑤	ヘッド・ランプ(右)	15A	前照灯(右側)
⑥	ヘッド・ランプ(左)	15A	前照灯(左側)
⑦	EFI	15A	EFIコンピューター フューエル・ポンプ
⑧	ワイパー	20A	ワイパー/ウォッシャー 前照灯クリーナー
⑨	ストップ	15A	制動灯、オーバードライブ作動表示灯 駐車灯

## ▶ 運転席足元ヒューズ・ボックス



(注) 予備ヒューズは運転席足元ヒューズ・ボックスのカバーに取り付けられています。

## 〈ヒューズの受け持つ装置〉

①	ターン	7.5 A	方向指示灯表示灯
②	エレクトロニクス リヤ・ワイバ	15 A	オーバードライブ オート・ドライブ、ESC リヤ・ワイパー/ウォッシャー
③	メータ	7.5 A	警告灯類、計器、後退灯 速度警報ブザー、排気温警告灯
④	ルーム・ランプ	5 A	室内灯、時計、電動フェンダー・ミラー、ト ランク灯、クルーズ・コンピューター、半 ドア警告灯、スポット・ライト、ドア・キー 照明、エンジン・キー照明、バック・ドア
⑤	イグニッション	7.5 A	充電警告灯、EFIメイン・リレー 予熱プラグ、燃料止めソレノイド
⑥	ラジオ	7.5 A	ラジオ、ステレオ
⑦	ライター	15 A	シガレット・ライター 電動アンテナ

## 〈サーキット・ブレーカーの受け持つ装置〉

⑧	リヤ・ウインドウ・ガラス曇り取り装置
⑨	電動ウインドウ、電磁式ドア施錠装置、サン・ルーフ

# 電球について

## ■電球について

### ▶フロント側

#### 前照灯

セダン／ハードトップ／ワゴン

白熱灯 65／60W

ハロゲン\* 60／55W

バン

白熱灯（外側） 37.5／50W

（内側） 37.5W

車幅灯／駐車灯 5 W

フロント方向指示灯(非常点滅灯) 23W

サイド方向指示灯（非常点滅灯） 5 W

### ▶リヤ側

方向指示灯（非常点滅灯） 23W

制動灯，尾灯／駐車灯 21／5 W

後退灯 23W

#### 番号灯

セダン／ハードトップ 5 W

ワゴン／バン 7.5W

### ▶室内

室内灯 10W

フロント・スポット・ライト 8 W

リヤ・スポット・ライト 10W

エンジン・キー照明灯 1.4W

グローブ・ボックス・ランプ 1.2W

★電球の交換は必ず同容量のものにしてください。

★ハロゲン・ランプ（ヨウ素入り電球）は使用時電球が高温になるため、表面に油などが付着すると寿命が短くなります。

電球交換時に手などがガラス部に触れないように注意してください。